

平成 25 年 2 月 21 日

お客様各位

株式会社 山喜農園
新潟県魚沼市原 1280-1
TEL. 025-794-2455
FAX. 025-794-4168
E-mail: info@yamaki-noen.co.jp
HP Address. http://www.yamaki-noen.co.jp

球根情勢報告

平素よりお引き立ていただき誠にありがとうございます。

N. Z 出張報告

1 月 22 日～27 日まで、ニュージーランドに出張してまいりました。
報告いたします。

V. Z、N. Z 社

栽培面積減少。定植している養成球のサイズも昨年と違う。

一言で言えば、昨年は、約 34,000,000 球収穫に対して、今のところの計算では約 30,000,000 球収穫予定。

リアル減少。ソルボンヌ減少。リック減少。コンスタタ減少。ティアラ減少。マルボロー減少。カサブランカ減少。

シベリア増加。シガムやや増加。レクス増加。ロンバルディア増加。デジール減少。カプレット減少。R トリニティやや増加。(特に 14/16 サイズ増加予定。作況予測と作付サイズ、作付密度から。13/14 サイズ・14/16 サイズ割合の仕入バランスは、まずまずだった。13 年産は、13/14 サイズで十分？)

圃場品質は昨年より又良く出来ているように見えました。

Plamv がまず入っていないのは、圧倒的な強みと考えられます。

球根の力については、

09 年産 強かった。

10 年産 まずまず。

11 年産 やや弱い。

12 年産 弱い。

となっているはずですが、

13 年産については、09/10 年産並みに力のある球根が出来ると思います。(9 月～1 月の 5 ヶ月間の気象条件により) 輸付き過ぎ注意の年となると思います。(残り 2～5 月の 4 ヶ月間の結果が出ないと本当のところはわからない…。)

*VOF に注目してください。(シベリア)

*12 年産 北海道産/新潟産/オランダ産の結果が象徴的だと言えそうですが、3～7 月の天候が球根の初期生育にとって不都合な場合、その年の球根の作況が良くなることはあり得ません。(12 年産欠品については本当に申し訳ありません！)

北半球産の場合、後半の 8～11 月の天候は、肥大と合わせて『球根の力』や『芽形成』に与える影響の方が大きいと考えられます。

*先日、高知県長浜地区の生産者を訪問した際も、「高知産切下球も前年の気象の影響が大きい」とお話しされていました。面白い！

13 年産 V. ZN. Z 社の球根は『作は良くなって、球根の力がある』という事になると思っています。休眠打破速度や、輸付きについてはまだコメントできませんが、期待は十分出来そうです。

*早い作型から遅い作型まで良い仕事をしような球根です。

*とにかく暑くて乾燥しており、私のハゲ頭はいわゆる低温やけどをした状態。
酷い事になってしまいました。

百合の球根は、新潟の 35~40°Cの気温にも耐えられるわけですので、暑すぎることはあまり心配していません。
ここまでの所は極めて順調だと言える様です。

リックは、13年産では流通しません。

P.O社/V.Z社取扱いのバッカ社ループについては、流通球数は半減しそうです。13/14、14/16、16/18、18/20 allサイズ取扱いを行ってもまだ厳しい情勢となりそうです。

14年産から、V.Z社産ループ復活。V.Z社産リック復活の予定です。一方、バッカ社産ループは、14年以降の生産面積の予定は確認できていません。

低加温でも耐えられる数少ないO.H系品種になりますから、重要度は、益々高まっていると思います。なんとか、4サイズ販売が出来る球根流通環境となってくれればと願っています。

カブラカ V.Z社産は、12/13年産で約15%減少。13/14年産でさらに15%減少予定。
これで良いのでしょうか…?

弊社の場合

V.Z社産+バッカ社産 V.Z取扱い分合わせて約3,750,000球と弊社取扱い南半球産球根の約50%がこの生産流通チェーンから入荷しています。11年産で大きな LMOV 事故が起きていますが、ふれずに生産計画のところからかかわって仕事を進めていきたいと考えています。

*日本全体でも、V.Z社のO.H系シェアは相当大きいようなので、是非日本向け/アジア向け品種構成を維持していただきたいものです。

*弊社のN.Z産球根で、品種名の後が無印の球根は、V.Z社産の球根です。(シベリアVOFは、V.Z社のプライベート!)

*N.Z、テイル港の冷蔵庫を使用して物流管理。スペース足りてる?

バッカ社

*V.Z社同様リヤ地区生産分

生産面積はやや増加となっている。

ややPlamvに関わる品種の生産があるが、ものすごい勢いで整理中。

畑の出来は、昨年久しぶりに確認して、良く出来ていて驚いたが、今年はさらに栽植密度をやや元に戻して(広げて)良く出来ていた。

昨年は天候まわりがあまり良くなくて、尚且つタイミング(球根肥大サイズ調整の為に、葉や茎を一定の長さ刈り込んでしまう。)のタイミングが早すぎ、日長の確保できるタイミングで既に地上部にあまり茎が残っていなかった。前記した様に、V.Z社産同様(同地域での生産なので)

09年 強い

10年 まずまず。

11年 やや弱い。

12年 弱い。

13年 強くなるであろう。

という天候まわりなので、今年は期待できそう。特に、バッカ社のリアルはV.Z社産に比べて落ち着いた『力具合』になっているので、球根が早い作型に置いて使いやすいと考えられる。

上手に使っていただきたい。V.Z社ハスターマン氏によれば、バッカ社のシベリアの品質改善は素晴らしいとの事。

ループの面積減少は、怖い…。なんとか面積維持/回復させてほしい所です。マロンをだいぶ増やしていたが、これは日本向けだけと言えない…。残念ながら他国へも出荷される様です。

*N.Zクライストチャーチ近郊の物流センターにて冷蔵・物流管理。スペースは、十分にある様子。

過去の訪問時、今回も時間が無くて、冷蔵庫物流センター確認に行けなかった。彼らがなぜ掘り取り後-1.5℃到達可能となったらずぐ出荷したがるのか…。次回確認したい。

ザンロー社

7年ぶりの訪問。

D. J 社分 O. H 系 11ha

クレーバ社分 〃 8ha (V. ZN. Z 社産養成球/バッカー社産養成球を使っていた。良い。賢いなあ〜。)

D. J 社分 L. A 系 1.1~1.5ha

L. A については、前年比 25~30%の生産面積に減少していた。日本向けにコンテナを仕立てられないくらい面積が減っていた。

N. Z ゴア地区は、他の地域と違い、かなり寒いのだが、12年産についてはその土地としては暖かい年だった。球根品質もまずまず。

13年産は再び寒い…。

*ポールウェッセル社長曰く、

1999年以降、今日現在までの間の N. Z ドル対ユーロの関係と比較すると、ここ近年はその期間の平均レートと比較して約 20~25%も、N. Z ドル高。

今の FOB 価では、全く利益が出ないから、減らさざるを得ないとの事。

円高ドル安・円高ユーロ安で苦しんでいる日本の輸出産業と全く同じ状況で、13年はさらに悪化。(N. Z ドル高が進んでいる…。)

百合を減らして、チュリップ球根生産を増加させたいとの事。

現在 22ha → 33~40ha まで増やす予定だそうです。

他地域よりも生産環境が百合にとって悪い土地だと、為替の影響が経営に大きく影響してしまう。生産地の環境にバッファーが無いからなのか？

久しぶりに会って話してみても、輸入業者から聞いていた話よりは元気だったのでほっとしました。

アメリカ/カナダ/ヨーロッパのチュリップ切花が好調の為、この会社が、チュリップで経営できるのは不幸中の幸い。刊のチュリップより、良い品質の球根が出来ている様です。(N. Z 南部は、刊の生産地よりもチュリップ球根生産に向いている気象条件だからだと思う。)

N. Z 主要 6 軒の球根栽培会社の内の 1 軒ですから、N. Z 球根生産団体(組織名=ベンズ)の維持発展の為に頑張ってもらいたいです。

アイランドパルプス社

南島生産

2N 球のみ。ハルトの 2N 球は、PLAMV 率が高いという理由で販売停止。後の品種は、様子を見る。

今後、変更の可能性有り？

昨年よりも状況は良さそう。

南半球では、12~2月には、植物は十分に日を浴びなければいけない。

やり過ぎを懸念して、密植したり、モイグを行ってしまえば、十分に日を受けられない。モイグのタイミングは、やはり 3 月以降なのでは…？

輸出業者が期待する販売サイズバランスにならなければ、農家も業社も収入減。

品質を要求すれば、サイズが外れる。サイズを要求すれば、品質が落ちる。

「球根って本当に農産物ですね…。」「希望通りのサイズのみ扱うのってやっぱり無理がある…。」

品質重視の方が、重要じゃないですか？

津南の雪美人は、モイグをしない。

出来たサイズの球根をどう使いこなすか考える。

国産球からの切花生産ってそういう事ですね…。

北島生産

春植え 1年栽培 基本的にN.Z産養成球 (1N)
冬植え 1年栽培 // (1N)
夏植え 1.5年栽培 オランダ産養成球使用 (2N)
春植え 2年栽培 基本的にN.Z産養成球 (2N)

開花球生産にも、4種類の球根生産方法があった。養成球生産の方法も様々。

開花球の生産方法の内、一番面積が多かったのは春植え1年栽培。

他の栽培方法の面積割合は、ほぼ同じの事。これもリスク分散。様々な養成球サイズの使用方法・コストコントロール手法？

バッカー社、V.ZN.Z社も同様な栽培方法を実践・研究中。

これってロット管理だけではなくて、ストック番号管理を行わないとまずいように思う。実際、12年で同一ロット内での品質差異が大きい。

注意していかなければ…。(既にP.O社と打ち合わせを始めました！)

10/11年でベストサルトと言って良い結果が出ていましたが、12年は…。

13年は良くなると思います。(ここまでの球根生産経過状況から。)

前記した様々な栽培方法からも分かる様に、アイランドバルブス社だけではなく、N.Z球根農家は、ものすごいスピードで種球原母球リボン養成球の更新を進めます。

したがって、前年の履歴がそのまま引き継がれるケースもありますが、大きく更新されるケースがあります。

V.ZN.Z社産のハリアが、たった1年で品質回復して、13年にはさらにステップUPが期待されることから分かります。(12年産とはまた違うのです。)

Vletter社品種の生産が多いです。

ホナーがしっかりしてくれないと、委託農家が大変です。中長期的な戦略を組んでもらいたいところです。

輸出作業用倉庫のキャパシティは、約40,000ケース。ちょっと足りない様子。

作業段取り・輸出段取りが重要。細かいロットは扱いにくいみたいですが、品種数は増やしてほしい。こちら物流センターがネックになってくる様です。(南島産は海送して、北島で処理。)

以上、簡単ですが出張報告でした。

刊レポートは、また後日…。

詳細はお問い合わせください。

森山 隆



<http://www.lily-promotion.jp/>
私共はLPJの趣旨に賛同し
協力・応援しています